

Foire Internationale du Livre Tokyo 98
Année de la France TIBF98



'98-'99日本におけるフランス年 東京国際ブックフェア'98 “フランス年”

日仏出版文化交流とフランス出版文化紹介事業

主催=(社)日本書籍出版協会・フランス出版文化紹介実行委員会
会期=1998年1月20日(火)▶25日(日)

日仏出版人会議:1998年1月20日(火)▶21日(水)

東京国際ブックフェア'98:1998年1月22日(木)▶25日(日)

文学シンポジウム:1998年1月23日(金)▶25日(日)

場所=東京ビッグサイト東4・5ホールおよび会議棟



Organisé par/Organized by : Japan Book Publishers Association "France Year" Executive Committee
Date : France-Japan Publishers Conference : January 20(Tue)-21(Wed), 1998
: Tokyo International Book Fair'98 : January 22(Thu)-25(Sun), 1998 10:00-18:00
: Literary Symposium : January 23(Fri)-25(Sun), 1998
Lieu/Venue : Tokyo Big Sight East Hall 4 & 5, and Conference Hall

Foire Internationale du Livre de Tokyo 1998

ご挨拶

本年1月20日から25日まで、東京ビッグサイトで開かれる東京国際ブックフェア'98 “フランス年” へのご来場を心から歓迎いたします。

昨年パリで開催されたサロン・ド・リーブル(パリ・ブックフェア)では「フランスにおける日本年」に先立ち、フランス出版界とフランス政府省庁による日本の作家・出版関係者の招待と伝統文化紹介、特別図書展示が行われ、たいへんな成功を収めました。

まず、その素晴らしい成果に応えるために、また本年4月からの「日本におけるフランス年」のスタートとして、過去から未来へと続く日仏の真心にあふれた出版界の交流を図るために、今回の催しを開きます。フランスから来日された方々はもとより、フランス大使館、日本国外務省、出版関連団体、日本の作家の方々、多くの方々のご協力に心から感謝を申し上げます。

今年が世界中の人にとって佳き年でありますようお祈りします。



東京国際ブックフェア'98 “フランス年”
社団法人 日本書籍出版協会
理事長 渡邊隆男

Année de la France

東京国際ブックフェア'98 “フランス年” 日仏出版文化交流とフランス出版文化紹介事業の 開催について

ご承知の通り、昨年11月、日仏両国首脳会談で交わされた『21世紀に向けての日仏協力20の措置』による「フランスにおける日本年」(1997~98年)、「日本におけるフランス年」(1998~99年)で日仏文化紹介行事や人物交流が実施されることになりました。そして同年3月に開催されました第17回サロン・ド・リーブル(パリ・ブックフェア)では、フランス出版界はもとより政府・関係省庁による多大な後援の下で、日本から作家、評論家、漫画家など20名が特別招待され、ユニークな討論会、対談などが行われました。また同フェア「日本館」では、日本の伝統文化の紹介や日本に関する特別図書展が開催され、大きな成果をあげました。一方同ブックフェア開催中に行われた日仏出版人会議では、両国出版代表による再販廃止反対の共同声明が発表されるなど、両国出版界の今日的な

様々な課題について熱心な論議が交わされました。当実行委員会はこうした成果と、継続的な出版交流の意義と重要性を考え、またフランス側からの強い要望などにより、東京国際ブックフェア'98 “フランス年”を本年4月から始まる「日本におけるフランス年」のイベントとして1月20日から25日まで東京ビッグサイトにおいて開催いたします。開催に際しては、出版関連団体はもとより、政府・関係省庁、フランス大使館からの援助・協力に感謝申し上げますとともに、今後の日仏出版交流の一層の促進のためにも、多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。



1998年1月

フランス出版文化紹介
実行委員会

委員長 石川晴彦

東京国際ブックフェア '98 “フランス年” 概要

フランス人作家らによるシンポジウム、対談、サイン会

作品が日本で翻訳出版されているフランス人作家や歴史家、哲学者など10名が来日。[文学]では80年代以降のフランスで最大のベストセラーといわれる『青い自転車』シリーズの作者レジヌ・デフォルジュ、処女作『めす豚ものがたり』がフランスで30万部も売れた話題の新進女流作家マリー・ダリュセック、『浴室』など多くの作品が映画化されているフランスを代表する若手作家ジャン=フィリップ・トゥーサン、人気ミステリ作家ブリジット・オベール、また、作家であり、ラジオの名プロデューサーとしても著名なオリヴィエ・ジェルマン=トマ。[美術史]の分野からは、現在もっとも刺激的な近現代の美術史家といわれ、日本のシュルレアリスムにも詳しいフランソワーズ・ルヴァイアン、[歴史]では感性の歴史家といわれるアラン・コルバン、[哲学]の分野では若手の人気哲学者で東洋の思想にも詳しいフランソワ・ジュリアン。パトリス・ルコントの映画『タンゴ』のイラストで一躍、世界的に有名になった[イラストレーター]のリオネル・コクラン、また[マルチメディア]のロマン・ヴィクトル=ブジュベは話題の最新作『CD-ROM 星の王子さま』を掲げて来日。日本からは'97年3月に開催された第17回サロン・ド・リーブルに招待された藤原智美、松浦理英子、港千尋らの人気作家を迎えて討論会、対談などが行われる。また日本ペンクラブ後援のもと、オリヴィエ・ジェルマン=トマ、フランソワーズ・ルヴァイアン、大岡信、高階秀爾の四名による文学シンポジウム「フランスからみた日本文化の現在」が開催される。

フランス・パビリオンでの図書展と各種イベント

東京国際ブックフェア'98のフランスパビリオンでは、文学・芸術、言葉、教育などからワイン、チーズなどの食文化、ファッションなどにいたる現代フランスを紹介する雑誌、書籍が分野別に2,500冊展示されるほか、サン・テグジュペリ、国境なき医師団(MSF)、昆虫学者ファーブル、点字を発明したルイ・ブライユなど、フランスにまつわる文化をテーマとしたミニ・コーナーを設け関係書籍やグッズを展示。“文学カフェ”ではフランスからの招待作家による対談、朗読会、サイン会なども開催される予定。

出版文化産業振興財団(JPIC)では、インターネットやCD-ROM、映像を通して美術、観光、ファッションなどフランス文化の魅力を紹介し、日仏の読書環境の比較など興味深い展示も行う。

サイバーカフェ・コーナーではCD-ROMやインターネットを使って日本未発表の話題作を中心にフランスのマルチメディア最新タイトルを取り揃えて紹介する。

また、フランスのワイン鑑定家による「ワインのきき酒教室」では、「ソムリエの鼻」になる方法をデモンストレーションし、ボルドー、ブルゴーニュの味を楽しんでもらう来場者サービスなども企画されている。

日仏出版人会議と交流懇親会開催

1月20日、21日の両日にわたり、「21世紀における出版の役割」、「日仏出版流通の比較と課題」、「マルチメディアと出版」など、日仏両国出版界における共通の出版課題について討議が行われるほか、取次会社、大手書店などの業界視察が予定されている。また、交流懇親会では、1月場所の大相撲観戦や若松部屋など実際の相撲部屋でのチャンコパーティなどが予定されている。

TIBF '98 “フランス年” スケジュール

1/20 (Tue) 日仏出版人会議 第1日

10:00-12:00 開会式・全体会議
(ビッグサイト会議棟606会議室)

10:00-11:00 議長：石川晴彦
(フランス出版文化紹介実行委員長)
挨拶：渡邊隆男
(日本書籍出版協会理事長)
セルジュ・エロール
(フランス出版協会会長)
来賓代表挨拶：
小淵 恵三 外務大臣
ジャン＝ベルナル・
ウーヴリュエ 仏大使
フランスからの
10名の招待作家紹介：

11:00-11:45 基調講演：アラン・グルンド
(IPA=国際出版連合会長)
「21世紀における出版の役割」

11:50 招待作家の合同記者会見
(ビッグサイト会議棟601会議室)

12:00-14:00 昼食会
(ビッグサイト会議棟8F
JWS カリフォルニアグリル)

14:30 ビッグサイトから
国技館行きバス出発

15:30-18:00 大相撲観戦(国技館/両国)
15:50 土俵入り

18:30-20:00 チャンコ・パーティ

1/21 (Wed) 日仏出版人会議 第2日

14:00-17:30 出版専門家会議
議長：石川晴彦
(ビッグサイト会議棟608会議室)

14:00-15:30 日仏出版流通の比較と課題
相賀昌宏
(日本書籍出版協会副理事長・
小学館代表取締役社長)
ジャン・サルザナ
(フランス出版協会事務局長)

15:30-15:50 休憩(コーヒーブレイク)

15:50-17:30 マルチメディアと出版
津野海太郎(出版評論家)
エドワー・ルサン
(マルチメディア作家)

13:00-16:00 APPA 総会
(ビッグサイト会議棟606会議室)

16:00-18:00 APPA フォーラム
基調講演：ジャン・サルザナ
(フランス出版協会事務局長)
「国際図書展運営成功への鍵」

18:30-20:30 レセプション
(フランス年+TIBF+APPA)
(ビッグサイトシーサイド有明)

19:00-21:00 アラン・コルバン講演会
「19世紀のパリの匂い」(日仏会館)

津野海太郎
TSUNO Kaitaro

1938年生まれ。編集者、評論家。晶文社取締役。雑誌、書籍の編集のかたわら、六月劇場を拠点に演劇評論活動。著書に「門の向うの劇場」「ベストと劇場」「小さなメディアの必要」「本はどのように消えていくのか」等。「季刊・本とコンピュータ」編集同人。

Né en 1938. Critique de théâtre et directeur éditorial aux éditions Shobun-Sha. Récemment a publié des essais sur le rapport de l'édition et des nouveaux médias : "Le livre et l'ordinateur", "Comment le livre va-t-il disparaître?"

エドワー・ルサン
Edouard Lussan

1964年、パリ生まれ。インタラクティブ・コミックの最高峰の呼び声高い「Operation Teddy Bear」(邦題「戦場のテディ・ベア」)の作者。本作品は本国フランスで文学者協会賞など、数多くの賞を受賞、日本でもマルチメディア・グランプリ'97最優秀作品部門賞に輝いた。

Né en 1964 à Paris. Auteur du cédérom "Opération Teddy Bear" publié en France par les éditions Flammarion et au Japon par Sanshusha. A obtenu le Prix de la Société des Gens de Lettres et au Japon le Grand Prix 1997 du Multimédia.

1/22 (Thu)
東京国際ブックフェア'98開会

- 9:30-10:00 TIBF '98 開会式 テープカット
- 10:00-11:00 フランスパビリオン・オープニング
(フランスパビリオン)
- 12:00-14:00 フランス書籍輸入書店/フランス著作権事務所主催 昼食会
(会議棟606会議室)
- 13:00- IPA 国際著作権シンポジウム
開会式・基調講演
(会議棟国際会議場)
- 17:00-19:00 日仏マルチメディアウィーク
カクテルパーティ
(フランスパビリオン)
- 17:30 ビッグサイトから東京国立博物館行きバス 出発
- 18:30-19:30 東京国立博物館内覧会
- 19:30-21:30 IPA 国際著作権シンポジウム
歓迎レセプション(東京国立博物館)
- 19:00-21:00 ポール・オチャコブスキ=ロレンス「文学サロン」(東京日仏学院)

1/23 (Fri) TIBF '98/
文学シンポジウム 第1日

- 10:00-17:00 日本出版業界視察
(日版王子流通センター、紀伊國屋書店)
- 11:00-12:30 ロマン・ヴィクトル=ブジュベ
マルチメディア講演会
(フランスパビリオン)
- 14:00-15:30 フランソワーズ・ルヴァイアン
×千葉文夫
対談「現代美術は誰のもの?
研究・出版・展示」(プレスルーム)
- 16:00-17:30 今世紀最高の料理人と絶賛される
フランスのシェフ、ジョエル・ロビュション氏の門下、
タイユバン・トーキョーのシェフ、
ギユエット氏によるデモンストラ
ーション(フランスパビリオン)
- 19:00-21:30 IPA国際著作権シンポジウム
バンケット(八芳園)

※フランスパビリオンとプレスルームは東京ビッグサイト東4・5館(東京国際ブックフェア'98 展示棟)、606 会議室とレセプションホールAは会議棟です。
講演の30分前に開場いたします。

※各講演・対談後、作家のサイン会が行われる予定です。

1/24 (Sat) TIBF '98/
文学シンポジウム 第2日

- 11:00-12:30 ジャン=フィリップトウーサン×藤原
智美×野崎欽(会議棟606会議室)
「テレビを消して見えてくるも
のー映像の刺激と文学の力」
- 11:00-12:30 フランソワ・ジュリアン×港千尋
対談「描かれた自然ー遠近をめぐ
って」(プレスルーム)
- 12:00-13:00 ジェローム・ルノワール
「ソムリエの鼻ーワイン教室」
(フランスパビリオン)
- 13:30-15:00 ブリジット・オペール
×原 京×堀 茂樹
「フランス・ミステリの魅力を
語る」(会議棟606会議室)
- 14:30-16:30 ロマン・ヴィクトル=ブジュベ
「フレンチマルチメディア最新
情報」(東京日仏学院)
- 15:00-16:30 マリー・ダリュセック
×松浦理英子(プレスルーム)
対談「文学とエロティシズム」
- 15:30-17:45 リオネル・コ克蘭講演会
(有隣堂 ランドマークタワー店)
- 16:00-17:00 ジェローム・ルノワール
「ソムリエの鼻ーワイン教室」
(フランスパビリオン)
- 18:30- フランス大使館主催
さよならパーティ(フランス大使館)

1/25 (Sun) TIBF '98/
文学シンポジウム 第3日

- 11:00-12:30 レジーヌ・デフォルジュ
講演「作家、出版人としての半
生と『青い自転車』」(プレスルーム)
- 11:00-12:30 アラン・コルバン×宮田登
×吉増剛造(会議棟606会議室)
鼎談「感性の歴史をめぐって」
- 13:00-14:30 リオネル・コ克蘭×坂川栄治
×貴田奈津子(フランスパビリオン)
講演「仏のイラストレーション」
対談「フランスの色彩感覚」
- 14:00-16:00 シンポジウム「フランスからみ
た日本文化の現在」
(会議棟レセプションホールA)
パネリスト: オリヴィエ・ジェルマン=ト
マ、フランソワーズ・ルヴァイ
アン、大岡信、高階秀爾
- 16:00-17:00 ジェローム・ルノワール
「ソムリエの鼻ーワイン教室」
(フランスパビリオン)

フランスからの招待作家らプロフィール Présentation des auteurs français invités

1/25

1月25日(日)14:00-16:00
於 会議棟 レセプションホールA

文学シンポジウム
パネリスト

「フランスからみた日本文化の現在」
フランソワーズ・ルヴァイアン、高階秀爾
オリヴィエ・ジェルマン＝トマ、大岡信



フランソワーズ・ルヴァイアン

Françoise LEVAILLANT

担当出版社：みすず書房

1944年パリ生まれ。近代・現代芸術の分野で、現在もっとも信頼のおける、もっとも刺激的な知的生産力を備えた美術史家のひとり。アンドレ・シャステル教授指導のもとに論文『ピカソの《ダンス》』(65年)を書いたあと、シュルレアリスムを研究、アンドレ・マッソンに出会う。'79年よりフランス国立科学研究所に所属、現在、研究ディレクター。Histoire de l'Art誌の創刊に携わり、Revue de l'Art誌の編集委員でもある。'72-'73年、日本に滞在、日本のシュルレアリスム運動も研究、『アンシクロペディ・ユニヴェルサルリス』の「日本美術」近現代の項を執筆している。邦訳著書に『記号の殺戮』(谷川多佳子・千葉文夫・太田泰人・廣田治子訳)(95年みすず書房刊)。編著にA.Masson, Le Rebelle du Surréalisme, Ecrits ('76 Hermann)等がある。

Françoise LEVAILLANT Editeur responsable : Misuzu Shobo

Née en 1944 à Paris. Historienne d'art, elle s'intéresse à l'époque moderne et au surréalisme en particulier. Elle est reconnue comme une des historiennes les plus originales et créatives. Actuellement directeur de recherche au CNRS, elle a participé à la création de la revue "Histoire de l'Art" et fait partie du comité de rédaction de la "Revue de l'art". Entre 1972 et 1973 elle séjourne au Japon où elle étudie le mouvement surréaliste japonais. Elle est en charge de la rédaction de l'article sur l'art moderne et contemporain au Japon pour l'Encyclopédie Universalis.

Publication de la traduction japonaise de son ouvrage "Massacre de signes" par les éditions Misuzu Shobo, 1995.

dimanche 25 janvier, de 14h à 16h symposium "Regard français sur la culture japonaise contemporaine" avec Olivier GERMAIN-THOMAS, OOKA Makoto, TAKASHINA Shuji

Lieu : Salle de Réception A



大岡 信

OOKA Makoto

詩人、評論家。1931年、静岡県三島市生まれ。東大国文学科卒。明治大学教授を経て、東京芸術大学教授。詩作とともに現代美術批評を試み、さらに近年はフランスで日本文学史を講義。新聞連載の「折々のうた」で活躍。'71年、『紀貫之』で読売文学賞。芸術院会員、文化功労者。主著『詩人・菅原道真』『岡倉天心』、詩集『故郷の水へのメッセージ』など。

Né en 1931, poète, critique d'art, professeur à l'Université Meiji et à l'Université d'Art de Tokyo. En France a fait des conférences sur l'histoire de la littérature japonaise et ses commentaires quotidiens sur la poésie japonaise ancienne et moderne publiés depuis 1979 dans le journal Asahi ont été recueillis en français dans un ouvrage intitulé "Poèmes de tous les jours" aux éditions Philippe Picquier.



高階秀爾

TAKASHINA Shuji

美術評論家。1932年、東京生まれ。東大大学院在学中の'54年、フランス政府給費留学生として パリ大学付属美術研究所で近代美術史に取り組み、ドラクロアを専攻。近代美術の東西交流を解明。東大名誉教授、国立西洋美術館館長。'72年に芸術選奨文部大臣賞。主著に『フィレンツェ』『ルネサンスの光と闇』『ピカソ・調音の論理』など。

Né en 1932, professeur à l'Université de Tokyo, directeur du Musée National d'Art Occidental de Tokyo. Il a suivi des études d'histoire de l'art à Paris. Spécialiste de Delacroix, il s'intéresse particulièrement aux relations Orient-Occident dans l'art moderne.

1/23

1月23日(金)11:00-12:30
於展示会場 フランスパビリオン
マルチメディア・デモンストレーション
「CD-ROM 星の王子さま」**オリヴィエ・
ジェルマン＝トマ**

Olivier GERMAIN-THOMAS

担当出版社：小学館

1943年、ブリーヴ市生まれ。作家、ラジオのプロデューサー。ソルボンヌ大学で美学博士号取得。シャルル・ドゴール研究所理事長を経て、フランス国営文化放送プロデューサーとして著名。日本をはじめ、ギリシャ、韓国、ビルマなどの文化を特集。93年、小説「有史前童心のままに」(Au coeur de l'enfance-Prehistoire)でヴァレリー・ラルポー賞。同年、紀行「仏陀-開かれた土地」(Bouddha, terre ouverte)で、カトリック文学グランプリを受ける。仏教圏の文化についての著作が多い。5回にわたる訪日体験にもとづき、「日本待望論」を執筆し、日本で近刊を予定する。

Olivier GERMAIN-THOMAS
Editeur responsable : Shogakukan

Né en 1943 à Brive-la-Gaillarde. A l'Université de la Sorbonne obtient un doctorat d'esthétique. Ecrivain, producteur d'émissions de radio. En 93, pour son roman "Au coeur de l'enfance-préhistoire" il obtient le prix Valéry-Rimbaud et pour son récit de voyage "Bouddha, terre ouverte" le grand prix de littérature catholique. Il publie de nombreux écrits sur les cultures bouddhistes. Ayant séjourné plusieurs fois au Japon il écrit "Lettre aux Japonais"

Dimanche 25 janvier, de 14h à 16h

Symposium "Regard français sur la culture japonaise contemporaine" avec Françoise LEVAILLANT, OOKA Makoto, TAKASHINA Shuji

Lieu : Salle de Réception A

**ロマン・ヴィクトル＝
プジュベ**

Romain VICTOR-PUJEBET

担当出版社：三修社

モロッコ生まれ。1979年、フランスからニューヨークへ移住、8年間にわたってカメラマン助手や記録映画の脚本・制作に携わる。その間、アフリカン・ミュージシャンとのユニットで音楽活動をするなど幅広い創作活動に取り組むが、娘ローラの誕生を機に南仏に戻ることを決意。帰国後、ローラに本の楽しさを伝えたいという目的で創り始めたCD-ROM「Le Livre de LULU」(邦題「ルル」三修社刊)が、世界中で絶賛され、数々の国際的なマルチメディア賞を受賞。'98年早々には、自らが脚色・演出した「CD-ROM 星の王子さま」が岩波書店より発表される。

Romain VICTOR-PUJEBET
Editeur responsable : Sanshusha

Français né au Maroc. Il s'installe à New-York en 1979 où, pendant 8 ans, il travaille dans des domaines artistiques divers : il est photographe assistant, collabore à la réalisation de films documentaires et la rédaction de scénarios, joue dans une formation de jazz... A la naissance de sa fille Lola il décide de rentrer en France et s'installe dans le sud. C'est pour partager avec Lola le plaisir de la lecture qu'il crée son premier Cédérom "Le livre de Lulu" (Flammarion, localisé en japonais par Sanshusha) qui remporte un succès international et est plusieurs fois primé. En 1997 il réalise le Cédérom adapté de l'oeuvre de Saint-Exupéry "Le Petit Prince" (Gallimard, en japonais à paraître chez Iwanami Shoten en mars 1998).

Vendredi 23 janvier, de 11h à 12h30

Conférence-démonstration "Le cédérom <Le Petit Prince>"

Lieu : Pavillon français, espace multimédia

1/23

1月23日(金)14:00-15:30
於展示会場 プレスルーム
対談「現代美術は誰のもの? 研究・
出版・展示」
フランソワーズ・ルヴァイアン×千葉文夫**Françoise LEVAILLANT**

Vendredi 23 janvier, de 14h à 15h30

débat "A qui appartient l'art aujourd'hui ? - recherche, édition, exposition" avec CHIBA Fumio

Lieu : Salle de Presse

千葉文夫 CHIBA Fumio

早稲田大学教授。フランス文学。特にシュルレアリスム、ミシェル・レリスの研究家として著名。

Professeur de littérature française à l'Université Waseda, célèbre pour ses travaux sur le surréalisme et Michel Leiris.

1/24

1月24日(土)11:00-12:30 於会議棟 606会議室
座談会 ジャン=フィリップ・トゥーサン × 藤原智美 × 野崎 歓
「テレビを消して見えてくるもの-映像の刺激と文学の力」



ジャン=フィリップ・トゥーサン

Jean-Philippe TOUSSAINT

担当出版社：集英社

1957年、ベルギー・ブリュッセル生まれ。'71年からフランスへ。'78年パリ政治学院卒業。'85年『浴室』で作家デビュー。続いて'86年『ムッシュー』、'88年『カメラ』、'91年『ためらい』を刊行、フランスの新しい世代を代表する作家となる。『浴室』はJ・ルヴオフ監督によって映画化、『ムッシュー』『カメラ』は自身で映画化、監督としての活動にも力を入れている。日本通としても知られ、来日は、'94、'96年に次いで三度目。新境地を切り拓いたと評される最新作『テレビジョン』を、'98年1月、集英社より刊行。

Jean-Philippe TOUSSAINT Editeur responsable : Shuei Sha

Né en 1957 à Bruxelles en Belgique. En 1971 s'installe en France. En 1978, diplômé de Sciences Politiques. Son premier roman "La salle de bain" est publié en 1985 par les éditions de Minuit. Devenu un des représentants de la jeune littérature française il publie ensuite "Monsieur" en 1986, "L'appareil photo" en 1988, "La réticence" en 1991. Avec l'adaptation cinématographique de "Monsieur" et "L'appareil photo", Jean-Philippe Toussaint commence également une carrière de metteur en scène. Son attachement pour le Japon est bien connu dans ce pays où il a effectué deux séjours en 1994 et 1996. Son dernier roman "La télévision" sera publié par les éditions Shuei Sha en janvier 1998.

Samedi 24 janvier, de 11h à 12h30

Début "Ce que l'on voit quand on éteint la télévision; le stimulant audiovisuel, la force de la littérature" avec FUJIWARA Tomomi et NOZAKI Kan

Lieu : Salle 606

藤原智美 FUJIWARA Tomomi

1955年生まれ。作家。著書『運転士』『群体(クラスター)』『R(リアリティ)』『ディスプレイのなかの青空』

Né en 1955, romans publiés en français par Stock

野崎 歓 NOZAKI Kan

1959年生まれ。フランス文学・映画論。一ツ橋大学助教授。

訳書トゥーサン『浴室』『ムッシュー』『カメラ』『ためらい』、ソレルス『秘密』

Traducteur des romans de J.P. Toussaint, professeur de littérature à l'Université de Hitotsubashi

1/24

1月24日(土)13:30-15:00 於会議棟 606会議室

対談「フランス・ミステリの魅力を語る」

ブリジット・オベール × 原 泉

司会：堀 茂樹



©Raoul Liboi arranged through Bureau des Copyrights Français
©Hayakawa Publishing, Inc.

ブリジット・オベール

Brigitte AUBERT

担当出版社：早川書房

1956年、南仏カンヌ生まれの女性作家。作家になる前からシナリオライターとして多くのスリラーを手がけ、短篇映画の製作者としても活躍した。'84年には自作の短篇小説を映画化した作品で「セリ・ノワール」コンクールに優勝。ミステリ作家としてのデビューは'92年のトリッキーな本格謎解き『マーチ博士の四人の息子』。二作目『鉄の薔薇』は冒険小説風サスペンス。三作目『ジャクソンヴィルの罫』(仮題)はスティーン・キングばりのモダン・ホラー。四作目のサイコ・ミステリ『森の死神』で'96年のフランス推理小説大賞を受賞(いずれもハヤカワ・ミステリ文庫)。そして最新作『カリブの鎮魂歌』(仮題)はハードボイルドと、多彩な作風と抜群のストーリーテリングの才を誇り、人気作家の座を獲得している。

1/24

1月24日(土)11:00-12:30 於展示会場 プレスルーム
対談 フランソワ・ジュリアン × 港 千尋
「描かれた自然 - 遠近をめぐって」

フランソワ・ジュリアン

François JULLIEN

担当出版社：平凡社

1951年生まれ。アリストテレス、前ソクラテス派の哲学を修める。現在パリ第七大学において中国の哲学・美学を講ずる。中国思想によってヨーロッパ思想に新たな光を当てつつ縦横の理論を展開して、目下、フランスで最もめざましく活躍する哲学者。邦訳著書に『無味礼讃-中国とヨーロッパの哲学的対話-』(97年10月 平凡社刊)がある。

主な著書は『転変あるいは創造-中国読書人の思惟への手引き』『事物の勢-中国における効率の歴史のために』『内在の形-易経の哲学的説解のために』『迂回と接近-中国・ギリシャにおける意味の戦略』『モラルの確立-孟子と啓蒙哲学者との対話』

François JULLIEN Editeur responsable : Heibonsha

Né en 1951. Normalien, philosophe et sinologue. Président du Collège International de Philosophie, professeur à l'Université Paris 7. A la lumière de la pensée chinoise il propose de repenser d'une façon nouvelle la philosophie européenne qu'il expose dans "Procès ou création : une introduction à la pensée des lettrés chinois" (Seuil 1989), "La propension des choses : pour une histoire de l'efficacité en Chine" (Seuil 1992), "Figures de l'immanence : pour une lecture philosophique du Yijing" (Grasset 1993), "Le détour et l'accès : stratégies du sens en Chine, en Grèce" (Grasset 1995), "Fonder la morale : dialogue de Mencius avec un philosophe des Lumières" (Grasset 1995).

En octobre 1997 les éditions Heibon Sha ont publié la traduction japonaise de son ouvrage "L'éloge de la fadeur" (Philippe Picquier, 1993).

Samedi 24 janvier, de 11h à 12h30

Débat : "Représentation de la nature, la perspective" avec MINATO Chihiro.

Lieu : Salle de Presse

港千尋 MINATO Chihiro

1960年生まれ。写真家、評論家。『記憶』でサントリー学芸賞受賞。『注視者の日記』など著書多数。

Né en 1960, photographe, écrivain, critique de l'image. A publié des ouvrages sur la photographie, les sens et les cultures, a obtenu le prix Suntory 1997 pour "Kioku" (la mémoire)

Brigitte AUBERT Editeur responsable : Hayakawa Publishing Corp.

Née en 1956 à Cannes. Avant d'écrire des romans elle est scénariste pour le cinéma et produit des courts métrages. L'adaptation au cinéma de sa nouvelle "Nuits noires" est primée. En 1992 elle publie son premier roman policier "Les quatre fils du Docteur March". En 1996, avec "La mort des bois" elle obtient le Prix de la littérature policière. Ses romans policiers sont publiés aux éditions Hayakawa Publishing Corporation.

Samedi 24 janvier, de 13h30 à 15h

Débat "Le propre du roman policier français" avec HARA Ryo et HORI Shigeki

Lieu : salle 606

原 祭 HARA Ryo

ジャズピアニストとして活躍の後、'88年『そして夜は甦る』で作家デビュー。『私が殺した少女』で第102回直木賞受賞。

D'abord pianiste de jazz, il publie son premier roman en 1988 et obtient le prix Naoki. "Nuit sur la ville" est publié aux éditions Albin Michel

堀 茂樹 HORI Shigeki

翻訳家。慶応義塾大学助教授。

アゴタ・クリストフ作『悪童日記』『第三の嘘』(日本翻訳大賞受賞)他、翻訳書多数。

Traducteur des romans de Brigitte Aubert, mais aussi de nombreux autres écrivains français, a obtenu le Grand Prix de la Traduction, maître de conférence à l'Université Keio